

# 道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

可愛いくとも毒がある福寿草。花言葉は「永久の幸福」「極限の愛」!



景色は最高、住むのは冒険。この先に氷のS字があり、敷地内で夜間駐車中。



年末に頂いた廃車寸前のスパイク付きパーダー50。どの車やバイクより強力でした。

春を告げる雪国の福寿草。法面に一斉に咲き誇る光景が自慢で、3月は「福寿草祭り」で賑わう我が松本市の四賀地区。黄色い花に似合うのは、もちろん真っ白な雪。しかし毎年どんどん降雪量が減り、今年は始まる前から雪が分かっていたので、観光客の期待もゼロ。そのうち雪ナシがあたり前になってしまふのかもしれないね。お隣の青木村で大規模林業を営んでいる方が、「雪かきをしたという記憶がない。雪寄せだった」と話していましたが、同じく、「除雪機械は動かしたけれど、ホウキで掃いた感じ」と、とても楽しんだ冬でした。

けれど自然は甘くはなく、温暖化ゆえの状況に何度か陥りました。仕事帰りに、斜面上りからさらに急斜面になり、植木の間のS字を縫って玄関へ。失敗すれば巨大な庭石に激突といふ。敷地に入ってからさらに急斜面になり、植木の間のS字を縫って玄関へ。失敗すれば巨大な庭石に激突といふ。敷地に入ってからさらに急斜面になり、植木の間のS字を縫って玄関へ。失敗すれば巨大な庭石に激突といふ。

う、さながらドライアルコー。今までは大雪でも、四駆スタッドレスならどんな車でも登りましたが、気温が低いと妙なアイスバーンができ、チェーンが有効な状況になってしまったのです。敷地に融雪剤を撒かず、雪が積もってしまふのが、雨後に雪下になり、雪の下は歩けないほどのアイスバーンとなっていて、暖かかった昨年よりも、2度ほど急勾配の急坂が登れず、どのモードにしてもズルズル下がっていく恐怖を味わいましたが、「私、リリースストじゃなかったっけ?」と、連続で自信喪失。

深い山間部にある我が家は、カフェのある海拔700mの集落から1キロで標高差150mほどをアイクイと登ります。最後、敷地に入ってからさらに急斜面になり、植木の間のS字を縫って玄関へ。失敗すれば巨大な庭石に激突といふ。敷地に入ってからさらに急斜面になり、植木の間のS字を縫って玄関へ。失敗すれば巨大な庭石に激突といふ。

自動運転の話がたくさん登場しました。20年ほど前には、交通社会のIT化を議論するたびに「そのままだよ」とか「そんなんじゃあかんぞ」とか「安全なかな?」とか「やがて無人運転があたり前の世界がすぐそこまで来ています。有人だと思ってる、我々よりずっと魅力的で思いやりやおもてなしができるロボットだったり?」なんて、そんな車は我が家のアイスバーンに遭遇したや、一体どんな対処を取るのでしょうか。1、気候を察知するので、そもそも行かない。2、危ない時にはチェーンやスタッドレスなどのタイヤを選択し、交換をうながす。3、滑っても

「春風や閑志いたきて丘に立つ(高浜虚子)」。立ち向かう決意と覚悟を感じた。立ち向かう決意と覚悟を感じた。立ち向かう決意と覚悟を感じた。立ち向かう決意と覚悟を感じた。

ハット 思い出しました。だるまの壁などに心当たりは、これと書いて「壁がなくても、うまく避けていくのかもしれない。少々ズルい生き方を学んでしまった様です。反省です。」



「準備は大切だね。」 「よはりすぎは...」

事が多発して知らなかったのか、はたまた驚いた、分かった上での行為なべきは、自らを記録して、会生活が出来ない人ではないのか? もはや、人の分類には入らない未知の生物か。見ただけでは判断できない未知の生物が運転するクルマやバイク、自転車、歩行者。後方に前にはいるのか? 遅ればせながら具体案を考えてみたいと思います。先ずは、外に出ない事かな?」

先ずは、外に出ない事かな?」

前回は引き続き「都市計画の伝道師」チャールズ・コンプトン・リードの仕事を追ってみたいと思います。オーストラリアのアデレード郊外で「ミッチャム・ライト・ガーデン」を計画したリードは、続いてマレーシア、フィリピンでの仕事に従事し、その後、1930年に顧問という立場で北ローデシア(現在のルサカ)に赴任、1931年に計画開発局長に就任します。

1929年、イギリス植民政府は、北ローデシアの首都をビクトリアの滝への入口としても知られているリンクストンから、カッパベルトへの戦略的な立地へ、気候も穏やかなルサカの地に移すことを決定(図)。



アシエットのイギリス帰国後にその仕事を継いだのがリードでした。銅の取引価格の下落によって計画は縮小を余儀なくされましたが、1938年に承認されたルサカの新都計画は比較的確りのある街路空間を見ることができま(写真)。

「Of Lusaka: Planning a Garden City to a Global City', SUR (Sustainable Urban Regeneration) vol. 32, pp. 35-39, Robert Home (2001)」「植えつけた都市: 英国植民都市の形成」京都大学学術出版会

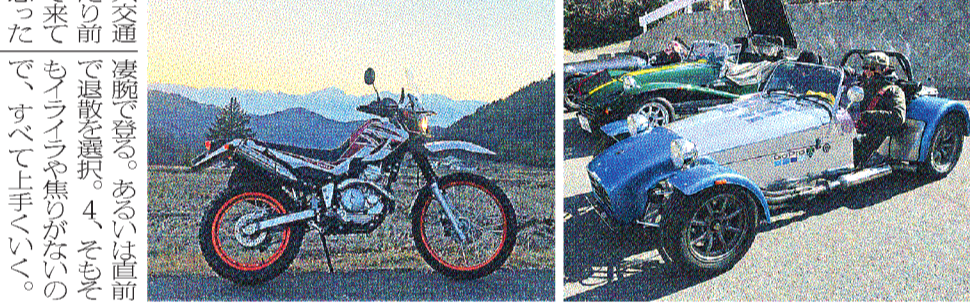
経済成長を遂げつつある中でも、現在もゆとりのある街路空間

現在もゆとりのある街路空間

★三好礼子の★ ナチュラル・ロード 時々出没する土田市のブレターな武者ライダー。怖いが優しくて人気者。 三好礼子 エッセイスト・元国際リスト ~ http://www.fairytale.jp/~

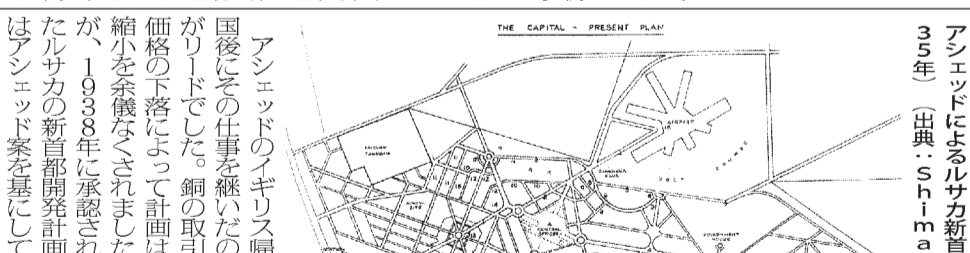


恩恵はごち。寒いけれど雪がないので遠くからいっはバイクが来てくれました。 作って直して走って愛でる。職場はITでも古きを楽しむ元気な旧車愛好家たち。



都市計画の中の道路(18) 街路から見た田園都市(その6) 東洋大学国際学部・准教授 志摩恵寿

前回は引き続き「都市計画の伝道師」チャールズ・コンプトン・リードの仕事を追ってみたいと思います。オーストラリアのアデレード郊外で「ミッチャム・ライト・ガーデン」を計画したリードは、続いてマレーシア、フィリピンでの仕事に従事し、その後、1930年に顧問という立場で北ローデシア(現在のルサカ)に赴任、1931年に計画開発局長に就任します。



アシエットのイギリス帰国後にその仕事を継いだのがリードでした。銅の取引価格の下落によって計画は縮小を余儀なくされましたが、1938年に承認されたルサカの新都計画は比較的確りのある街路空間を見ることができま(写真)。



経済成長を遂げつつある中でも、現在もゆとりのある街路空間